

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店 [鞆・袋物] (経営者)	来客数の動き	・やはり客は質の高い商品なら喜んで金を出す。
		コンビニ (経営者)	来客数の動き	・客単価は下がっているが、来客数が増加しているため売上は上がっている。
		その他飲食 [居酒屋] (経営者)	来客数の動き	・例年の10月はかなり落ち込むが、平日の入客が前年比120%で推移している。特に観光客が増えている。
		観光名所 (職員)	来客数の動き	・施設利用者数は3か月前の7月は対前年同月比で102.2%、今月は10月25日現在で107.3%でやや良くなっている。9月までは個人客中心だったが10月は修学旅行等の団体旅行が中心である。
		ゴルフ場 (経営者)	来客数の動き	・県出身の女子プロの活躍や、ゴルフイベントなどが続き、プレイヤーの意欲が高まっている。
		その他のサービス [レンタカー] (営業担当)	来客数の動き	・今月も観光入域客数が順調に伸びており、売上の増加につながっている。対前年からすると20%の伸びになっている。
	変わらない	百貨店 (担当者)	販売量の動き	・例年よりも高い気温に苦戦の10月となった。本年は台風の影響で営業日が1日少なかった前年をクリアするものと見込んだが、月初めからの高い気温に衣料品を中心に低迷し、全館苦戦となっている。特に婦人衣料の苦戦は顕著で、前年比 - 10%となっている。アイテム的にはブーツ、秋冬衣料の苦戦が目立つ。ただし食品、住居関連の売上は堅調であることから、消費意欲はある程度高い。
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・今月の前半は前年に比べて若干足踏みしたものの、後半はかなり持ち直してきている。
		家電量販店 (従業員)	販売量の動き	・来客数そのものは減少しているが、それは、新規出店の影響の買い控えにすぎない。購入している客の買物の内容は割に高級志向である。一頃の「安ければ何でもよし」からは買物の内容が変わってきている。
		乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・軽自動車、小型自動車は好調だが、当社の主力車種の普通自動車は不調である。
		その他専門店 [書籍] (店長)	単価の動き	・新都心にある当店は来客数は前年の108%を超えているが、客単価は前年の96%ほどと落ちている。この数字から見ると単価の安い物が主だって動いており、出版社もそれに合わせて単価の安い商品をメインに出してきている。粗利の少ない書店業界にとってはかなり厳しい。
		その他専門店 [楽器] (経営者)	来客数の動き	・修学旅行の学生が例年より多い。一般の観光客も購買力があるものの、10月の前半までがピークであった。
		観光型ホテル (商品企画担当)	来客数の動き	・客室稼働率が対前年同月比で7ポイント増の見込みで、個人旅行のシェアも増加している。
	やや悪く なっている	スーパー (経営者)	競争相手の様子	・9月後半から10月にかけて競合店の出店が相次ぎ、10月についてはかなり厳しい状況になっている。
都市型ホテル (スタッフ)		販売量の動き	・10月から11月に移行するこの季節は、例年は各種催し物の開催や忘年会の予約等で忙しいシーズンであるが、今年の出足が悪い。原因として考えられるのは石油価格の高騰、すなわちガソリンの価格の漸増が煽る、消費者の今後への不安感が挙げられる。	
悪く なっている	一般小売店 [衣料品・雑貨] (経営者)	販売量の動き	・前月と比較すると来客数は変わらないが、修学旅行生が多いため客単価が低くなり、売上減少の結果になっている。しかし前年同月比と比較した場合は同じである。	
	住宅販売会社 (経営者)	競争相手の様子	・建設業界では他社の倒産や解散、会社整理等が進んでおり、景気は悪化の一途をたどっている。	
企業 動向	良く なっている	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注額の低下傾向が見られる。
		不動産業（支店長）	受注量や販売量の動き	・問い合わせや、成約件数が横ばいである。
	やや悪くなっている	通信業（従業員）	取引先の様子	・取引先において人員整理など経費圧縮の動きがあり、これに伴いIT系の予算は直接利益につながらない限り、先行投資的な要素であってもカットの動きがある。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・回線の引き合い、新規受注は平均的に推移しているが、大口顧客の部分的解約が1件確定している。しかし、補完的なプロジェクト案件が具体性を帯びてきたので、全体としては変わらない。
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（営業担当）	求職者数の動き	・求人企業数はほぼ横ばいの状況であるが、各社の募集人数が増えているのに対し、求職者の動きが全然追いついていない。求人を出しても、思うような採用人数の確保がなかなかできていないということは、求職者自身がより好みをされていて危機感があまり伺えないということである。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	採用者数の動き	・求人数は特に変わらないが、一企業が採用する人数が増加傾向にある。特に県外からの求人に関しては、大幅な増員もみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・求人が引き続き好調に推移していて、採用の枠を広げる傾向に変化はない。
	変わらない	職業安定所（職員）	求人数の動き	・6月と比較すると、新規求人数は2.7%増の3,684人である。一般求人は7.2%増で2,957人（構成比79.7%）である。パート求人は12.2%減の726人（構成比17.5%）である。9月の新規求人は建設、情報通信、金融・保険で増加し、一方で製造、運輸、卸売・小売、不動産、飲食、宿泊で減少している。特に建設と金融・保険での増加が著しい。有効求人倍率は0.02ポイント低下し0.50倍である。就職件数は12.9%減少の1,240人である。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	